



株式会社 根子左

代表取締役 根子 清氏
専務取締役 豊田 一雄氏

■企業概要

本社：茨城県水戸市千波町2830-5
創業：昭和36年12月22日
従業員：48名
事業内容：左官工事(ビル建築、住宅、文化財、珪藻土壁)
塗装工事(ビル建築、住宅、リニューアル工事、防水工事)
リフォーム工事(住宅、店舗、新築、増改築、リフォーム全般)

水戸市に本社を置く株式会社根子左は、昭和36年に創業し、今年で55年を迎える左官業界のパイオニア企業です。

同社は、ビル建築や住宅、店舗、文化財などの左官工事や塗装工事、増改築などのリフォーム事業を展開しています(※)。

現在、同社は32名の職人を正規社員として雇用しています。職人たちの活躍の場と生活の安定を提供する同社の制度は、業界内で最先端の取り組みです。

高度経済成長期以降、日本の住環境は一変し、シックハウスなどの問題が発生しました。そこで同社は、平成9年より、シックハウスから住む人を守ることができる新しい土壁 樹脂無添加珪藻土「エコ・クィーン」の取り扱いを始めています。

「左官を通してお客様の健康、命、財産を守りたい」と語る根子代表取締役の想いは、社員研修などを通して、次の時代へ着実と受け継がれています。

(インタビュー日：平成28年10月17日)

〔聞き手：筑波総研(株) 専務取締役 藤咲耕一〕

創業までの経緯と根子代表取締役のご略歴についてお聞かせください。

■新天地・茨城で左官業を再開

当社の創業者は、私の父 根子市左工門です。生まれ故郷である岩手県花巻市で左官業に携わっていましたが、冬期は土壁が凍ってしまうため仕事が不安定でした。

そこで父は、昭和33年に出稼ぎのため日立市

へ移住し、土木作業員として働き始めました。その後、徐々に日立市で左官の仕事が増え、昭和36年に根子左工業を創業しました。「根子左官」ではなく「根子左」としたのは、特徴ある社名にしたいという父の想いからでした。

しかし、父の会社が昭和38年に倒産。私は翌年、20歳で日立市に移り住み、茨城県立日立工業高等学校に入学しました。そこから、父と私そして2人の弟子とともに再出発しました。

高校で専門知識と技術を習得した私は、昭和42年に入社。2年間の現場仕事を経て、総務や営業業務に携わりながら、事業の拡大に向け試行錯誤の日々を過ごしました。

そして、業績が安定してきた昭和46年、父は有限会社根子左工業を創業し、私は専務取締役に就任、その後、平成4年に株式会社化して代表取締役に就任しました。

御社の事業概要や事業拡大のプロセスについてお聞かせください。

■左官業のパイオニアとして走り続ける

当社は、ビル建築や住宅、店舗、文化財などの左官工事や塗装工事、増改築などのリフォーム事業を展開しています。

「左官」と聞くと、一人親方や少人数の規模で経営しながら、町場の仕事をしているという印象を受けるかもしれません。

一方、当社は、以前より父がビルの左官工事に携わっていた関係で、清水建設株式会社をはじめとする15社のゼネコンから一次請負し、主に大規模建造物の左官工事を行っております。

(※)平成28年10月にオープンした筑波銀行つくば副都心支店2F会議室などの壁は、同社の樹脂無添加珪藻土「エコ・クィーン」を使用しています。

■ 職人との厚い信頼関係が事業拡大の鍵

私は、左官業に身を置くようになってから、職人の生活の安定、社会的地位の向上、そして、左官の品質確保が必要であると考えていました。

また当社は、創業当時より「税金を納める、職人を騙さない、支払いの期日を守る、値切らない、他社より良い仕事をする」と方針を決め、誠実に事業を進めてまいりました。

すると、当社の姿勢を認めてくれた優秀な職人たちが次々と集まるようになり、結果として、仕事の質が向上していきました。

技術は嘘をつきません。職人との厚い信頼関係があったからこそ、ここまで事業を拡大することができたと感じています。



本社内のショールームに塗られた「エコ・クィーン」

■ 御社が特に力を入れている樹脂無添加珪藻土「エコ・クィーン」についてお聞かせください。

■ お客様に豊かな住環境を提供したい

日本人がかつて住んでいた家は、木や土、草、紙などの自然素材で構成され、日本特有の夏場の湿気を吸収し、室内はマイナスイオンが多い空気であふれる「命を癒し、守る家」でした。

しかし、高度経済成長期以降、日本の住環境は一変。現代の家は工業製品などで構成されることが多く、シックハウスなどの問題が発生しました。

私はこの問題の背景として、日本の伝統文化の維持と継承を忘れ、効率化、合理化を進めてきたことが原因ではないかと考えています。

私は、子供の頃から20代前半まで身体が弱く、心身の健康維持には高い関心がありました。そこで当社は、平成9年より、シックハウスから住む人を守るができる新しい土壁、樹脂無添加珪藻土「エコ・クィーン」の取り扱いを始めました。

■ 自然物由来の優しい壁

珪藻土の「珪藻」とは、地球の海の中で最も早く誕生した植物性プランクトンで、無数の孔が規則正しく並び、珪酸質の殻で包まれています。

珪藻土は、何万年の歳月を経て珪酸質の殻の部分が化石化してできたもので、当社は新潟の海で採れた珪藻土を使用しています。珪藻土のメリットと顕微鏡で観察した様子は、以下の通りです。



柄入りの左官壁を説明する根子代表取締役

■ 大手ゼネコンからの定評で、得意先が増加

昭和48年頃から始まった石油危機の影響を受け、日本経済は悪化し、当社を含む建設業も冬の時代を迎えました。

しかし、当社は仕事の出来栄が好評だったため、売上をそのまま維持することができました。

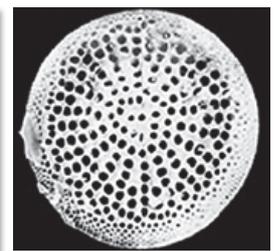
その仕事の品質を大手ゼネコンに認められ、得意先も増加。そのおかげで、昭和50年には創業時から10倍の売上を記録することができました。

■ 業界最先端・職人を全て社員化

当社は、得意先が増加したことで、事業も順調に進み、昭和49年から通年の職人採用が可能となりました。その後、昭和56年から現在に至るまで、若手左官職人の雇用、社員化を進めています。

現在、当社では32名の職人が正規社員として活躍しています。職人たちの活躍の場と生活の安定を提供する当社の制度は、業界内でも最先端の取り組みであると自負しています。

- ・ 吸水性に優れている
- ・ 防臭性がある
- ・ 断熱性に優れている
- ・ 耐火性がある
- ・ 壁の表情を楽しめる
- ・ 吸音性がある



珪藻土のメリット

珪藻土の顕微鏡写真
(写真提供：根子左)

珪藻土はそれ自体で固まる性質は無く、壁材にする場合は固化剤を使用する必要があります。当社は、珪藻土の特性を最大限に発揮させるため、珪藻土の孔をふさがらない樹脂無添加の石灰系固化材（漆喰）を使用しています。



珪藻土を説明する根子代表取締役と豊田専務取締役

■ 湿度や温度の調整に優れ、工期も短縮

「エコ・クイーン」は、高度な吸放湿度・調温機能によって室内の湿度を40~60℃に保ち、抗酸化作用のあるマイナスイオンの空気を生成してあらゆる有毒ガスを除去することが可能です。

漆喰の施工は、その機能を発揮させるためにかなりの厚みが必要で、乾燥時間も2週間ほどかかりますが、「エコ・クイーン」は、厚さ3mm、約1日で乾くため、工期を大幅に短縮することが可能です。

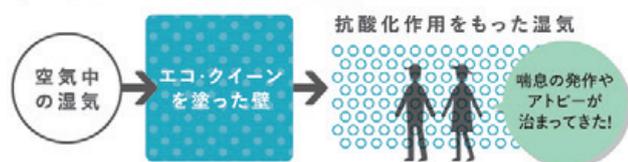
値段は、ビニールクロスより4倍ほど高くなりますが、維持修繕費・光熱費などを踏えたランニングコストは、トータル的に安くなります。

■ お客様の命を守る「健康リフォーム」

「エコ・クイーン」は、梅雨の時期でも家の中の空気をさわやかに保つため、カビや結露は発生しません。冷暖房を使う頻度は減少し、地球環境の保護にも役立ちます。

また、お客様からは「喘息の発作が一度も出ていない」、「子どものアトピーがほぼ完治した」、「不眠症の悩みがほぼ解消された」など、心身ともに健康が改善されたという嬉しい声が届きます。

「エコ・クイーン」で既存の壁をリフォームすることは、単なる改修ではなく、命を守る健康な空間を作り出す「健康リフォーム」なのです。



「エコ・クイーン」の効果（画像提供：根子左）

■ 日本の左官技術を継承したい

「左官」とは、平安時代に宮中の壁を塗る職人に対して授けられた官位であるという説があり、1,200年以上の伝統がある職業です。

私は、日本人が自然由来の土壁を発明した理由として、以下の3点を指摘しています。

1つ目は、昔から日本人は、自然を敬い、恐れ、神が宿る自然を大切にしてきた民族だということ。2つ目は、日本の気候が温帯モンスーン地帯特有の高温多湿であること。3つ目は、土が燃えない素材であり、住む人の命と財産を守ることができるという利点があることです。

また、土壁・漆喰の空間は、傷つきやすく壊れやすいからこそ、子どもの頃から物を大切にすることを体で覚え、思いやりの心を育む教育の場でもありました。

私は、左官の技術、そして日本の伝統文化に心から誇りを持っています。当社は、最高の材料を使い、最高の仕事をすることで、左官技術を次の時代へ継承していきたいと考えています。

■ 豊田専務の事業へ想いをお聞かせください。

■ 「お客様を守る」が仕事のやりがいに

私は、平成15年に当社へ入社後、根子代表取締役の住環境に対する考え方、左官職人がこれまで培ってきた技術や知恵、そして日本の伝統文化の奥深さに深く感銘を受けました。そして同時に、日常生活をはじめとする「自らの生き方」について、改めて見直すきっかけにもなりました。



角の塗り方を説明する豊田専務取締役

また、当社の職人たちも「自分たちの仕事が、お客様の健康と生活を守っている」ということに気づき、仕事のやりがいは一層深まっています。

左官の仕事は、ただ壁に材料を塗ることはありません。私たちの真の仕事は、「左官を通してお客様の健康、命、財産を守ること」なのです。

社員教育の取り組みについてお聞かせください。

■ 若手職人「技能五輪全国大会」で金メダル

当社は40年以上の年月をかけ、職人の社員化にはじまり、様々な研修を通して後継者の育成及び職人の技術力向上に取り組んでまいりました。



練習場に書かれた若手職人の「夢」

私は、当社の社員に対し、夢と誇りを持ち、社会に貢献できる人になってほしいと願っています。そのためには、常に一人ひとりが技術及び人間性を磨き、新工法の開発などに取り組む必要があります。

そこで当社は、年に1度開催される「技能五輪全国大会」に出場を希望した若手職人に対して、手厚い支援をしています。

この大会は、原則23歳以下の出場者が、機械組み立て、左官、美容、洋菓子製造、ウェブデザインなど40職種において技能を競い合います。

平成21年の大会では、当社の職人が左官部門で金メダルに輝きました。今年も2名の若手が出場し、銀メダルを受賞しました。

■ 職人の「夢の実現」と「技術向上」を応援

当社の日常的な社員教育は、豊田専務を中心に進めています。挨拶や清掃など基本的なことは徹底的に実践するほか、職人たちには工事終了後、施主宛に必ず自分の手で感謝の手紙を書くよう指導しています。

また、新入社員には、尊敬する先輩の良いところを見つける練習や1日の中で気付いたことをノートに記載することを義務化しています。

さらに、会社側も研修会の実施や職人たちが自主的に練習できる研修場などを整備し、技術向上への全面的なバックアップ体制を整えています。

職人の夢と技術力の向上を応援することは、会社の役目であり、将来的に必ず会社の力となります。そして、これから就職予定の若い方々には、ぜひ当社へ入社していただきたいです。

今後の事業戦略についてお聞かせください。

■ 「日本一の左官企業」を目指す

当社は、「業界のパイオニアとして地域社会の発展に貢献し、広く社会より信頼される企業をつくる」という経営理念を掲げながら、日本一の左官企業になるため、社員一同日々精進しています。

今後も時代のニーズに高いアンテナを張り、最先端の技術・工法に挑戦すると共に、その取り組みを発信するために、HPの充実にも一層力を入れてまいります。

また、社会問題となっている空き家について、当社の左官技術でプロデュースし、当社が目指す「住む人の健康と幸せと夢、そして豊かな住生活を実現できる家」として再生し、中古物件市場の活性化に寄与していきたいと考えています。

■ 世界に発信・左官を「クールジャパン」に

当社は、世界に類をみない日本の左官技術に誇りとやりがい、夢を持っています。そして、この素晴らしい技術を次の時代に継承する使命があると感じています。

今後も左官業界のトップランナーとして、左官技術で日本人の命と健康、財産を守ってまいります。そして、日本中の家に左官仕上げの塗り壁を増やし、居心地の良い空間を作り出していくことで、業界全体を盛り上げていきたいです。

また、近年、海外において日本の伝統や生活スタイルが「クールジャパン」と呼ばれ、大変注目されています。今後、当社も海外に目を向け、日本の「根子左」の高い技術力と日本の伝統文化を世界に向けて広く発信してまいります。



根子左代表取締役(中央右)、豊田専務取締役(中央右)、
県庁支店 植田支店長(左)と聞き手・藤咲耕一

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。

■ 文責・写真：筑波総研株式会社 研究員 富山かなえ